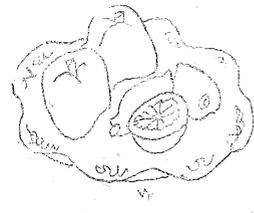


昭和二十七年を迎えて

——國際經濟情勢の變動に即應し得る
合理化體勢の確立を期す——

日本鑛業協會

會長 新海英一



國民待望の講和條約の締結により昭和二十七年は新生日本が獨立第一歩を印す歴史上銘記されなければならぬ年である。この歴史的轉換期の關頭にあつて、過ぎし、この一年の金屬鑛業界の歩みをかえりみると、朝鮮休戰會談の停滯、地中海を中心とした西歐諸國家間の緊迫した情勢等世界の軍擴機運は依然として緩和されず、非鐵金屬の需要は前年に引続き旺盛であり好調の一路であつた。各鑛業會社も探鑛の促進、設備の改善等に努めた結果、企業の伸張は著しく、上半期の主要鑛山會社の高収益に、かつてない高配當を實施するまでに立直り、戦後ひさしく苦境に悩んできた金屬鑛業もようやく企業に安定感を得るにいたつた。

誠に、金屬鑛業にとつては最良の年であつたであらうか。

さて、新年度の金屬鑛業界は如何であらうか、昨年八月電力料金、十一月國鐵運賃の値上げ、四・五月に引續いて十月の再度の賃金ベースの引上げ、その他資材の昂騰等による生産コストの上昇、電力制限による操短により企業に與える影響等前途には樂觀を許さぬ困難な問題がある。

講和獨立により、新年早々わが國も國際通貨基金ならびに國際原料制當會議（IMC）銅、鉛、亞鉛部會に参加するものとみられるので金屬鑛業も、自由國家群の協力經濟に参加することになるであらう。

しかるに、わが國鑛業は米英に比し企業自體に戦時中の亂掘と戦後の經濟混亂の空白時のハンディキャップを内包しているので、國際經濟競争に伍して立ち行かぬには國際市況を標準に經營の合理化體勢の確立が急務

日本鑛業協會誌（第五卷第一號）

新年號目次

（卷頭言）

☆昭和二十七年を迎えて……………新海英一……………一

☆鑛山業會計における

ダイブレーション問題……………西川義朗……………三

☆世界銅況の概観……………

渡部 亮……………七

☆年頭所感……………

羽仁路之 岡部 楠男……………三

☆新春放談……………

菅禮之助……………三

（特集）
☆東北鑛業の概況……………

……………二四

（解説）
☆第十二臨時國會から……………

……………三

▽月間の動き（月間餘滴）……………

……………三六

▽ニュース……………

……………四〇

▽資料……………

……………四三

（表紙寫眞） 太平鑛業尾去澤鑛業所

【附録】 東北地方鑛山分布並鑛業地帶圖

